

〈筑波大学附属病院・婦人周産期グループで行われている介入を伴わない後方視的観察研究〉

患者様へ

このコーナーには当診療グループで行われている多施設共同の「介入を伴わない後方視的観察研究」が列挙されています。「介入を伴わない後方視的観察研究」とは、既に治療が行われた患者様の診療内容についてカルテ(診療録)から調査し、カルテに記載されている範囲内で分かる最新の患者様の健康状態などと照らし合わせて、これまで行われた治療の問題点を探り出し、その解決法を研究したり、新しい治療体系を構築するなどの研究を行うものです。多くの施設が同じ目的で情報を収集、集積する事でより正確な研究結果を導きだせる可能性が高まります。当診療グループで行われるこのような観察研究では、患者様の個人情報を他施設に送る場合には匿名化を行っており、ご氏名やご住所など個人を特定できる情報は病院外には提供いたしておりません。

このような観察研究の対象となる患者様の中には既に治療や外来通院期間を終えられていたり、転居などで当院には通院していらっしゃらなかったり、またご不幸な結果を迎えてしまった患者様も含まれ、研究へのカルテの情報の提供につき、患者様1人、1人に説明しご同意を得る事は現実的には不可能です。

そこで、このコーナーのような形で研究内容を公開しております。もし、ご自身が研究の対象者に該当する可能性があり、研究への診療情報の調査を行ってほしくないなどのご意志や苦情等がございましたら、研究項目毎に「保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先」が記載されておりますのでお問い合わせください。

研究課題名

婦人科悪性腫瘍登録事業及び登録情報に基づく観察研究

研究の意義・目的

調査対象期間に、臨床診断、切除標本や生検により病理診断された子宮頸癌、子宮体癌、卵巣悪性腫瘍、卵巣境界悪性腫瘍の症例をオンライン登録により収集する。調査の対象となる診療情報は該当する疾患患者さんで1976年10月1日から2027年12月31日の間に当院の婦人科で治療を開始した方の診療情報

である。収集されたデータを用い、1) わが国における婦人科癌（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣悪性腫瘍、卵巣境界悪性腫瘍）の進行期・病理学的分類、2) 診断・治療の実態、3) 治療成績（5年生存率）、4) 登録罹患数や治療指標などの年次推移、5) これらの研究成果を患者や社会が利用しやすい情報として提供する方法等について解析・公表し、婦人科癌患者の医療・福祉に貢献することを目的とする。また、登録情報を活用して国際比較研究を行い、わが国の婦人科癌及び婦人科癌医療の特徴と海外との共通点・相違点等を明らかにしてゆくことは、今後ますますその必要性・重要度を増大していくものと考えられる。

#### 研究の方法

診療録などに現存する情報を後方視的に収集して研究を行う。患者の同定は各施設内で匿名化し、施設名と連続した番号のみで登録される。登録患者の氏名、住所、カルテ番号などの個人を特定しうる情報は一切提供しない。情報の解析は適切な統計学的手法により行われる。

研究期間 2027年12月31日まで

代表施設名・研究組織代表者氏名

日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会

榎本隆之

筑波大学附属病院内の研究代表者氏名

筑波大学附属病院・婦人周産期診療グループ

佐藤豊実

保有する個人情報に関する利用目的

多施設共同後方視観察研究(上記研究)への参加

保有する個人情報の開示手続

筑波大学附属病院のホームページにある「お知らせ」の中の「筑波大学附属病院の個人情報の取り扱いについて(PDF)」を参照。

保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先  
筑波大学附属病院・婦人周産期診療グループ・櫻井 学  
TEL: 029-853-3073, FAX: 029-853-3072